

からまつ

北原白秋

(一) からまつまつの林はやしをすぎてから松まつをしみじみと見る
から松まつはさびしかりけり

たびゆくはさびしかりけり

(二) からまつまつの林はやしを出でてから松まつの林はやしに入りぬ

からまつまつの林はやしに入りて

また細ほそく道みちはつづけり

(三) から松まつの林はやしの雨あめはさびしけどいよよしづけし

かんこ鳥どり鳴なけるのみなる

からまつまつの濡ぬるのみなる

【作者】北原白秋(一八八五〜一九四二年)(明治十八年〜昭和十七年)・日本の詩人、童謡作家、

歌人。本名は北原隆吉。詩、童謡、短歌以外にも、新民謡(「松島音頭」・「ちやつきり節」等)の分野にも傑作を残している。生涯に数多くの詩歌を残し、今なお歌い継がれる童謡を数多く発表するなど、活躍した時代は「白露時代」と呼ばれる近代の日本を代表する詩人である。

弟はそれぞれ出版人となり、北原鉄雄は写真・文学系出版社アルスを、北原義雄は美術系のアトリエ社を創業し、従弟の北原正雄も写真系の玄光社を創業した。